

にしじ

高知医療センターの 改革プラン.... P2~P6

5

MAY.2011 Vol.67

- 地域医療連携病院のご紹介 Vol.61 (大川内科) P7
- ニュース Vol.21 P7
- 高知医療センターイベント情報 P8



4月1日に2Fくろしおホールにて、辞令交付式が行われ、畠中企業長より各新職員に辞令が交付されました。

高知医療センターの基本理念
医療の主人公は患者さん
高知医療センターの基本目標

1. 医療の質の向上
2. 患者さんサービスの向上
3. 病院経営の効率化

高知医療センターの改革プラン

高知医療センターでは経営改善に取り組んでいます

高知医療センターでは、総務省の公立病院改革ガイドラインに基づいて、平成 22 年 3 月に「高知医療センター中期経営改善計画（改革プラン）」を策定し、平成 23 年度の単年度収支の黒字化を目標に掲げています。

また、平成 22 年 10 月には、この改革プランの取り組みにより、具体的な実行計画となる**改革プラン**

を作成し、高知医療センターの基本目標である「**医療の質の向上**」「**患者さんサービスの向上**」「**病院経営の効率化**」に取り組んでいます。今回、この改革プランについてご紹介いたします。（高知医療センターのホームページ（改革プラン）でもご覧いただけます。）

改革プラン：医療の質の向上①

医療の質の向上に向けて

5つのセンター機能を柱とした診療機能の充実強化

高知医療センターでは、とくに重要としている「**5つのセンター機能**」を確立し、第 5 期高知県保健医療計画のなかで、高知県の医療の最後の砦として、高知県内における様々な役割を担っています。

当院は健全経営を重視しながら、地域住民の皆さまのニーズに基づいた一般医療のほか、へき地医療、災害医療、救急医療、1 類・2 類に対応する感染症医療を中心とした高度特殊医療などを推進しています。平成 24 年度には、身体合併症や児童・思春期の治療を中心とする精神科医療を行う病棟「**こころのサポートセンター**（仮称）」が開設予定です。当院**医療局**では、緩和ケア内科や甲状腺科などの新しい診療科の増設、臓器移植を中心とする臓器移植医療、脊椎や腰椎の疾患に対する整形外科医療、血管外科を駆使した肝胆膵領域疾患の医療、斜視治療の眼科医療などを中心に、**薬剤局**では薬学的管理指導、**栄養局**ではフードサービスと臨床栄養管理の総合情報システムの推進、そして、**看護局**では高知県立大学（旧高知女子大学）との看護連携型ユニフィケーションの国内初の取り組みを実践しています。

また当院では、他の医療機関ではあまり行われていない医療機能が 38 もあり、その**スペシャルな医療**において高度な医療を実践しています。多数の症例に遭遇する機会があり、若手医師の研修と輩出拠点となり得ると考えられますが、一方では、地域住民の健康保持のための啓発活動など、**地域福祉の向上**に更に積極的に取り組んでいく予定です。

今後の病院 IT 業務においては、新たな「**病院 IT センター**」を構築することによって、事務系部門の「行政事務」と「医療経営事務」の機能分担を明確にし、病院 SE（システムエンジニア）も含めた IT センターが地域医療支援との連携に大きな役割を果たすであろうと考えています。

医療の質の向上において「**5つのセンター機能**」の現状と今後あるべき姿についてと「**新たな医療機能の整備**」、そして、「**その他機能の取り組み**」についてご説明いたします。今後のあるべき姿については、現状の計画に反映していない部分もありますが、医療ニーズを踏まえ、順次計画に反映していく予定です。

がんセンター：機能の現状と今後

① H20 年 2 月に「地域がん診療連携拠点病院」の再指定を受け、高知県におけるがん治療の中心的な役割を担っています。

② 全身麻酔下手術、内視鏡下手術とともに、手術件数は年々増加しています。5 大がん（胃がん、大腸がん、肝臓がん、乳がん、肺がん）においては、地域連携パスが進行中で、早期発見・早期治療・その後の経過治療の症例が更に拠点病院に集中してくると考えられます。

「高知県がん対策推進計画」に基づいた病院機能の充実化をさらに進めます。高知大学医学部附属病院や高知赤十字病院との協働のもと、地域の医療機関との間で診療機能の分担化を図ることにより連携を強化し、「地域完結型のがん治療」を確立していきます。

手術の増加に伴い、がん治療経過中に集学的治療（化学療法・放射線治療などの併用治療）を行う機会も増加してくるため、当院での外科的療法の得意分野・不得意分野を分析し、地域ニーズを踏まえたうえで今後の戦略を立てていく必要があります。

③ 従来、本邦ではがん治療の最善の方法として「手術療法」が位置づけられてきましたが、今後は周術期に集学的治療を推進する方向です。当院では手術症例の増加とあいまって、放射線治療の増加も見込まれます。

④ 当院では、緩和ケアチームに精神的ケアを行う専任医師が配置されていない現状です。一般患者さんと緩和ケア患者さんが混在した状態でのケアとなっており、患者さんや看護師への心理負担も大きいと思われる。

放射線治療専門医の増員が急務。放射線治療医複数体制が確保できれば、今後は腔内照射装置、組織内照射（ブラキセラピー）の導入、そして将来的には高度な放射線治療が行える装置の導入も視野に入れて検討していく必要があります。

緩和ケア内科医を招聘し、H23年1月から緩和ケア内科外来を開設。緩和ケア内科医は、緩和ケアチームの活動にも加わっています。今後、10床程度の「緩和ケアユニット」を設置することが要望されます。また、H23年度からはがん患者さんへのリハビリも開始されます。

循環器病センター：機能の現状と今後

① 循環器病センターは、県下で唯一1年365日・24時間、循環器専門医が常駐し、救急患者さんの受け入れ直後から専門医による循環器疾患救急治療を提供しています。循環器内科の虚血性疾患に対する心臓カテーテル治療件数は年間300件を超え、全国トップレベルの治療成績を収めており、心臓血管外科は全国に先駆けて低侵襲心拍動下冠動脈バイパス手術を導入し、開始以来の総数は800例におよび、当該治療で全国をリードしています。

② カテーテル治療年間件数は、虚血性心疾患に対するカテーテル治療305例、不整脈に対するカテーテル治療63例、末梢血管に対するカテーテル治療34例と多くの疾患がカテーテル治療されていますが、とくに虚血性心疾患および不整脈治療ではトップレベルの治療成績を誇っています。また、大動脈瘤手術に対してもカテーテル室での低侵襲なステントグラフト治療を開始し、高齢者の重症症例に対して良好な成績を収めています。

③ 循環器病棟内に「心臓血管リハビリセンター」を置き、引き続き急性期治療後リハビリ・社会復帰までの全行程に対して、完成度の高い循環器治療を行っています。栄養管理指導、薬剤管理指導などの充実にも取り組んでいます。

高知県の「急性心筋梗塞治療センター」構想の中核施設として中心的な役割を果たす責務があり、年々増加する循環器救急患者さんの積極的で十分な受け入れのためには、3階の救命救急フロア・CCU室・カテーテル治療室・手術室・9階の循環器病センター病棟全て、各部署のハードとソフトの両面について更なる機能の充実と拡充が必要です。

患者さんの高齢化・重症化に伴い、手術治療からカテーテル治療へ、入院の必要な侵襲的検査から外来での非侵襲的検査へと、より低侵襲な診断・治療への患者さんのシフトは今後も加速されると思われます。このため、この循環器疾患治療体系の大きな変化に対しては、医療スタッフの配置・病棟・カテーテル室・手術室のハードとソフト両面の環境設備も同時進行で進歩・充実させていく必要があります。

今後もこの方針を堅持し、栄養管理指導、薬剤管理指導も含め、県民の健康管理に貢献していきます。

地域医療センター：機能の現状と今後

① H19年4月に地域医療支援病院の指定を受け、地域の医療機関を介しての高知医療センターの診療実績は、毎年少しずつ向上しており、この2年間の紹介率は53～55%、逆紹介率は70%前後で推移しています。H21年度の外来患者数は増加傾向で、1日800人を超え、平均在院日数は13.6日で、病床稼働率も90%を維持しています。急性期医療を担っている当院と地域の医療機関との役割機能連携が順調に行われていると評価できます。

これからもより一層、紹介率を上げるため「待たせない・断らない」を基本に、前方業務の迅速な対応体制を強化します。紹介医の満足度の向上を図るため、フェーストゥフェースの関係づくりを強化し、お互いの立場を尊重し合い、信頼関係を築きながら医療連携の絆を深めます。紹介患者さんに対しては、予約時間厳守で案内し、心のこもった対応を充実させ、患者満足度の向上を図ります。

高知医療センターの改革プラン

② 入院患者さんの退院支援調整に対しては、H22 年 1 月より 5 名のMSWをフロア担当にし、役割機能を明確にして後方業務の均等化を図るためにサポート体制を整えました。

③ 地域医療連携の強化のため、地域の医療機関を順次訪問し、連携を深めています。地域医療連携研修会を年 6 回、奇数月に開催し、地域医療センターのホームページを充実させ、地域医療機関の皆さまに情報を発信しています。

④ 「へき地医療拠点病院」としての指定を受け、県内各地にあるへき地診療所などへの代診医派遣や無医地区巡回診療を行っています(年間 130 日以上)。また、電子カルテサーバーを当院のコンピューター室に配置し、四万十川流域のへき地診療所 2 施設と Web 型電子カルテで診療情報を共有できる環境を整備し、新たな地域医療連携の取り組みも始まっています。

月約 70 ~ 80 件の転院依頼を受け、決定までに 7.9 日要しているが、院内外の連携を密に行い、更に転院調整日数の短縮に努めます。また、患者サービスの観点に立った公費負担制度の案内など、治療前からMSWが関わってフォローできる組織的な管理体制も検討していきます。

今後は、地域医療連携ネットワークを充実させるために、高知県地域ケア体制整備構想も視野に入れ、訪問看護ステーションや老人保健施設などとの意見交換や情報共有を強化し、後方連携業務の拡充を図る必要があります。また、地域住民や地域の医療機関、老人保健施設などの従事者を巻き込んだ研修会や講演会について今まで以上に内容を充実させ、地域医療支援病院としての役割を強化していきます。

へき地医療情報ネットワークによる遠隔画像伝送を利用した診療支援はもちろんのこと、多地点Web会議を利用した定期的な救命救急センター症例検討会の開催などで、引き続き密な連携を図っていきます。今後、他の地域にあるへき地診療所などにも、このネットワークの輪を広げ、へき地医療の第一線で活躍する医師を全面的にバックアップしていきたいと考えています。

救命救急センター：機能の現状と今後

① 開院以来、救命救急センターを持つへき地医療拠点病院として、県内にある多くの病院と連携しながらへき地医療支援・広域救急搬送などを実践してきました。このようなグローバルな視点に立ったうえで、当院は全診療科の協力を得ながら、病院全体で救命救急センターを維持・運営していくというシステム基盤が構築され、高知県の救急医療になくてはならない存在となっています。

② H17 年 3 月の開院時から、消防防災ヘリをドクターヘリ的に運用してきました。地元消防から要請を受けたヘリが高知医療センターの専門医をピックアップして現地に向かい、初期治療を開始。消防防災ヘリ特有のメリットを最大限に活かした形で運用に積極的に取り組み、年間 200 件のヘリ搬送を行ってきました。今年 3 月には、従来からの消防防災ヘリを引き続き活用した救急患者さんの搬送に併せて、高知県ドクターヘリの運航を開始しました。また、少しでも早く医師が傷病者と接触するための手段の一つとして、昨年 7 月に欧州型ドクターカー (FMRC: エフマーク) も導入しました。

関係各科の支援を得ながら、救急科医師も少しずつ増えていますが、更なる戦力の充実や収容能力の向上が必要です。昨年 11 月からは、指導医を配置し、レベルは大いに向上しましたが、まだまだ不足しており、今後若い医師の増員が望まれます。救急医療は医療の原点であり、患者さんの治療を行う場であるというだけでなく、若い医師にとっては大変重要な教育の場でもあり、研修医や専修医にとって魅力的な研修の場になるよう、更なる充実を図りたいと考えています。

現行の消防防災ヘリの運営と役割分担をして、お互いに補填できる環境づくりを目指したいと考えています。より早期から傷病者とコンタクトをとることで、治療成績の更なる向上を目指しています。救急搬入患者さんが増えると、緊急手術や緊急検査に対応できる体制の構築も必須となってきます。救命救急センターには、病院の地域における位置づけや社会資源、設備、マンパワーなどを十分に理解・把握したうえで、救急患者さんに対してより良い医療が提供できる能力が求められ、高知県における救急医療の最後の砦としての働きが求められます。そのためには、二次の医療施設、三次の医療施設との連携だけでなく、地域の医療施設との後方連携の更なる強化も必須と考えています。

総合周産期母子医療センター：機能の現状と今後

① 高知医療センター総合周産期母子医療センターは高知県で唯一のセンターであり、MFICU（母体・胎児集中治療管理室）3床、NICU（新生児集中治療管理室）9床を中心に、母体・胎児・新生児の治療管理を行っています。分娩数はH18年504件、H19年543件、H20年588件、H21年647件と除々に増加し、件数に占めるハイリスク分娩の割合も高まっており、NICU入院患者数（超低出生体重児数）も、H18年217(12)人、H19年227(21)人、H20年232(14)人、H21年207(6)人と多く、県内で出生する超低出生体重児の7～8割が入院しています。

② 県外で問題となった妊婦の妊娠以外の救急合併症は、救命救急センターと連携して全ての妊婦や新生児を県内医療機関で応需してきました。

③ 高知県全体の周産期医療レベルの向上のため、周産期医療関係者研修事業にも力を注いでいます。

安全で快適な分娩ができる施設として、当センターでの分娩は増加すると予想されますが、現在の病床数では700～750件が限界と考えられ、産婦人科診療所および他病院と連携し、当センターとしての機能を保たなければなりません。そのためには、産婦人科医・小児科医の確保、小児外科医2名体制、看護師の教育体制整備が重要です。その結果、H23年4月から、小児科研修医5名（初期2名、後期3名）が着任し、後方新生児室（GCU）の看護師も増員し、体制を強化することになっています。

今後も救命救急センターと連携して、全ての妊婦や新生児を県内医療機関で応需してきた体制を持続していきます。

高知県全体の周産期医療レベルの向上のため、周産期医療関係者研修事業を継続し、更に妊婦への啓発を行政とともに推進し、周産期死亡率や新生児死亡率を低下させることに力を注いでいくことが求められます。



改革プラン：医療の質の向上②

医療の質の向上に向けて、新たな医療機能の整備

精神科病棟の整備（こころのサポートセンター（仮称））

高知県の精神科医療を支えるために、中核的病院を中央医療圏域に設置することが必要となり、高知県からの要請に応え、関係機関とも連携しながら高知医療センターがその役割を担い、H24年4月に開設します。

こころのサポートセンター（仮称）は、大学病院や他医療機関および先進保健福祉機関などと緊密な連携を図りながら、現病院の持つ医療機能を活用し、高知県全体を対象として身体合併症を中心とした精神科医療を行うとともに、急性期の重症患者さんや措置入院、新たに求められている児童・思春期の治療などの精神科医療を行います。

外来診療機能は、大学病院や他医療機関との連携を軸とし、紹介予約を中心に成人外来2診、児童・思春期外来1診としています。

入院診療機能は、成人の急性期治療や身体合併症治療を行う病床30床と、児童・思春期治療を行う14床で構成します。

ITセンターの新設

昨年度まで設置していた「情報システム室」は、医療情報センター（以下ITセンター）として独立させ、より専門的な立場で当院の情報システムの運営に携われるような体制にしました。

ITセンターは電子カルテシステムを中核とし、当院の情報を一元的に管理していますが、開院以来24時間365日連続しての稼働により、処理能力に限界が生じており、ソフトウェアサポートの打ち切りやハードウェアの保守期限の到来など、現状のままシステムを維持することが困難になりつつあることから、H24年4月に新しいシステムに更新することになっています。

医療の質の向上に向けて、その他機能の取り組み

基幹災害医療センター機能の充実

大規模災害が発生した場合に、初動体制を迅速に確立し、多数の傷病者を受け入れることができるよう、院内災害訓練および院内災害講習会を開催しています。また、DMAT（災害発生時に派遣する医療チーム）の養成、スキルアップのための研修会を開催しています。

職員の資質の向上

職員の保有する資格・技能などを把握し、高知医療センターの年報に収載し、各局（医療局、看護局、薬剤局、医療技術局、栄養局）で、職員の専門資格の取得を支援している。また、各局で職員の研修会などへの参加、学会発表などのついて目標を掲げ、取り組んでいます。



改革プラン：患者サービスの向上

患者さんサービスの向上に向けて

インフォームド・コンセントの充実

これまでの取り組み状況から見て、患者さんが疾病に対する説明や日々の生活指導を医師から十分に受けたと理解していない状況にあります。的確な診断と治療、診断内容・治療計画・生活活動指導、合併症、危険率(副作用・リスク)、術後予後、セカンドオピニオンなどを含めた十分な説明と、患者さん自身の自己決定権を尊重し、同意を得たうえで治療を開始する「インフォームド・コンセント」を十分に行うよう改善を図ります。

相談窓口、情報提供の推進

職員および患者さんやご家族に高知医療センターの相談対応体制についての周知が十分ではなく、職員に高知医療センター内の相談対応体制を周知し、必要に応じて活用したり、患者さんに紹介できるようにしていきます。

また、患者さんが自ら医療機関を選択できるように、診療実績や治療方法、最新の医療技術などの情報提供を徹底し、医療文庫の検証、院内情報提供ツールの見直し、医療技術リーフレットの作成、公開講座の開催やアイテム開発を積極的に行い、「患者さんに選ばれる病院」を目指します。

外部評価による機能の充実

意見箱「宝箱」を設置するとともに、定期的に患者さんの満足度調査などを実施し、意見や調査結果を病院運営に反映させ、患者満足度の向上に努めてきましたが、今後は単なる満足度調査から、来院から治療におけるまでの患者ストレス度をスケール評価し、患者ストレスの軽減に努めます。



改革プラン：病院経営の効率化

病院経営の効率化に向けて

開院当初、診療機能面の充実と比較して実際の医療現場では、導入された電子カルテに対する習熟度が低く、診療にあたって混乱がありました。当初の計画と比べて、外来・入院患者数ともに未達成であり、厳しい経営を余議なくされていましたが、高知医療センター経営改善委員会の広報と地域医療連携における新たな取り組みにより、最近では外来・入院患者数は徐々に増加し、診療単価や平均在院日数は当初想定目標を大きく上回る実績をあげています。

経営状況は開院以来、計画を上回る赤字が続き、起債の元金の償還が始まった H20 年度決算では資金不足が生じ、厳しい経営状況が続いていました。こうしたなか、

国から公立病院改革ガイドラインが示され、H23 年度までに経常収支の黒字化に取り組まなければならないこともあり、PFI 事業の根本に立ち返って協議を進め、SPC からの合意により H21 年度末をもって PFI 事業契約の解除となりました。

H22 年 4 月から直営運営となり、確実に経営改善に繋げるには、事務職員にも医療事務に精通した人材の育成・確保を図るとともに、各委託業務の見直しをはじめ、今まで以上に総コストを点検し、費用削減に努める必要があります。今後は、健全なる収支構造の確立を可能とする「医療を中心とするトップマネジメント」による責任ある運営体制の構築が必要だと考えています。

病院経営の効率化の取り組みについて、以下の事項があげられます

- 地域医療連携の強化による紹介・逆紹介の促進による患者数確保
- 医事における診療報酬請求業務の精度の向上
- 未収金管理機能の強化
- 休床している病床の活用
- 外来化学療法機能の拡大と整備
- 手術室の稼働率のアップ
- 早期リハビリ機能の再構築
- 高額医療機器の稼働管理の徹底
- DPC 運用における情報伝達機能の構築
- 超過勤務の削減
- 後発医薬品の導入促進
- 医薬品適正使用の促進 (DPC データ活用など)
- SPD 機能の精度と質の向上
- PFI 事業契約の解除による委託業務の直営化に伴う委託料の削減
- 目標管理機能の徹底
- トップダウンによる指示命令組織の体制強化



大川内科

〒780-8006 高知市萩町 1 丁目 6-52
 TEL : 088 (855) 7717 (代)
 FAX : 088 (855) 7727
 URL : http://www.ookawa-naika.jp/

(診療科)
 内科、循環器内科、老年内科



*1 は 15:00 ~ 19:00 *2 は 14:00 ~ 16:00
 休日診日：木曜午後、日・祭日

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~13:00	●	●	●	●	●	●	×
15:00~18:00	●	●*1	●	×	●*1	●*2	×

大川内科は、高知市潮江の萩町に 2011 年 3 月 1 日に開院しました。患者さんとの対話を大切に、何でも気軽に相談ができるかかりつけ医として、内科一般の診療を行うとともに、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病の診療と、心筋梗塞・狭心症、不整脈、心臓弁膜症、心不全など命と暮らしに直結する循環器疾患への対応・慢性期の管理を特徴としています。キリスト教の精神に基づき、4 つの S (Shepherd's heart, Servant's attitude, Standard medicine, Support life) を診療理念としています。(大：大川内科、高：高知医療センター)

高：開院おめでとうございます。まず、貴院が力を入れていることはどのようなことですか？

大：昔ながらの地域の診療所のように、患者さんとの対話を大切



大川真理院長

にし、わかりやすい説明を心掛けています。また、大川真理院長の専門領域である循環器疾患の診断、慢性期の管理に力を入れ、心房細動に対する抗凝固療法や、慢性心不全の悪化の予防にも積極的に取り組み、心臓超音波(心エコー)を診療に活かしています。当院では患者さん一人ひとりの健康のトータルケアが大切と考え、患者さんの生活環境を知ることが重要と思っています。

院内は患者さんに安心して気軽にきていただけるように、まるで家にいるようにくつろいでリラックスできる空間作りを心がけました。待合室は明るく開放感がある吹き抜けで、やさしく暖かい光が差し込み、昼間はぼかぼか陽気です。

高：地域との連携や他医療機関との連携について、どのように連携をしていきたいですか？

大：専門的な検査・治療や、入院が必要な場合には、積極的に高次医療機関に紹介させていただき、また、地域の医療機関や、介護福祉に携わる方々とも連携をとっていきます。昨年まで大学病院に勤務していたなかで重要性を感じていた、暮らしを支える診療所と総合病院との連携のために、フットワーク軽く取り組んでいきたいと思っています。

高：今後、往診や在宅・介護支援などもしていけますか？

大：当院がかかりつけの患者さんに対しては、必要に応じて、往診、在宅・介護支援を行っていく予定です。高齢者総合機能評価を行い、高齢者の全人的ケアに取り組んでいきたいと思っています。

高：今後、貴院が目指されることをお聞かせください。

大：患者さんとの対話を大切に、暮らしを支え、人々の幸せに奉仕するために、プライマリケア全般にわたって幅広い診療を目指していきたいと思っています。

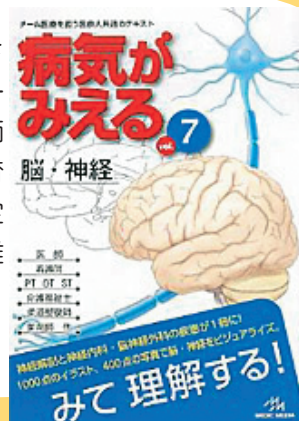
ご多忙の中、取材にご協力いただきありがとうございました。

当院・脳神経外科の森本雅徳先生監修の本ができました。

NEWS
Vol.21

当院の医療局長(脳神経外科)、森本雅徳医師が監修された本が発売されています。メディックメディア発行、医療情報科学研究所編集の、チーム医療を担う医療人共通のテキスト「病気がみえる vol.7 脳・神経」(定価 3800 円)。もうひとつは、MEDIC MEDIA 発行の医師生涯教育を支援する「イヤート 2010 第 21 版 内科・外科編」(定価 24000 円)の TOPICS 2012 の中に森本雅徳医師が執筆されています。

当院の医師が執筆、監修した本の紹介を HP でもしています。是非、ご覧ください。



高知医療センター イベント情報

日	曜	5月～			
8	日	高新・高知医療センターがんセミナー～みんなが知りたいがんのこと～ ※参加費あり、事前申込要			
		内容	よく分かる放射線治療（第2回 / 全12回）	講師	高知医療センター がんセンター センター長 森田 荘二郎 氏
		場所	高新文化教室（RKC 高知放送南館 4F）	時間	10:30～12:00 対象 一般(定員40名)
		主催：高知新聞社、高知医療センター 共催：アフラック高知支社 主管：高知新聞企業 お問い合わせ＆お申込み：高新文化教室 電話：088（825）4322（日曜・祝日を除く 9:30～19:00） 参加費：受講料9,600円（12回分）※1回受講の場合は1,500円			
11	水	高知医療センター新人看護研修 地域施設公開研修 ※参加費無料、事前申込不要			
		内容	第1回：医療の場における倫理	講師	高知医療センター 専門看護師
		場所	高知医療センター2F くろしおホール	時間	18:00～19:30 対象 医療従事者
お問い合わせ：高知医療センター 看護局 教育担当 FAX：088（837）6766					
15	日	ハーモニーこうちが贈る院内コンサート ※参加費無料、事前申込不要			
		内容	出演者：女性合唱団 凜、ピアノとフルートのデュオ		
		場所	高知医療センター1F ふれあいロビー	時間	15:00～ 対象 一般
主催：高知医療センターボランティアグループ「ハーモニーこうち」 お問い合わせ：高知医療センター まごころ窓口 電話：088（837）6777					
20	金	平成23年度第2回医療安全管理研修会 ※参加費無料、事前申込不要			
		内容	サイバーテロをはじめとする インターネット犯罪の現状（仮）	講師	高知県警察本部 生活環境サイバー犯罪対策 係長 山崎 幹夫 氏
			情報セキュリティ対策の重要性 ～個人として、組織として（仮）		四国管区警察局 高知県情報通信部 情報技術解析科 課長補佐 大西 博文 氏
		場所	高知医療センター2F くろしおホール	時間	18:00～19:00 対象 医療従事者
お問い合わせ：高知医療センター 医療安全管理センター E-mail:iryozanzen@khsc.or.jp					
28	土	第17回地域医療連携研修会 ※事前申込不要、参加費無料。内容が変更する場合がございます。ご了承ください。			
		内容	医薬品の安全使用と 危険薬の誤投与防止について	講師	高知医療センター 薬剤局 局長 田中 照夫 氏
			転倒・転落防止について		高知医療センター 医療安全管理室 担当部長 坂口 房子 氏
		場所	高知医療センター2F くろしおホール	時間	14:00～ 対象 医療従事者、一般
お問い合わせ：高知医療センター 地域医療連携室 中島					

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。背景に色がついている講座は是非、地域の医療機関の皆さまにご参加いただきたいものとなっております。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

編集後記

はじめまして。この4月から地域医療連携室で勤務させていただくことになりました。社会人となり生活が大きく変わることで、最初は不安や戸惑いもありましたが、皆さまから温かいお言葉や励ましをいただくなかで多くを学ばせていただき、とても充実した日々を過ごしています。業務に関しましては経験もなくなれないことばかりで、皆さまには多くのご迷惑をおかけしておりますが、日々の気づきや疑問を大切に、少しずつソーシャルワーカーの先輩方に近づけるよう努力していきたいと思っています。まだまだ未熟な私ではありますが、地域医療連携室の一員として患者さんやご家族を始め、たくさんの方との繋がりを大切にしながら、今自分にできることを精一杯取り組んでいきますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。（MSW 水田）



平成23年5月1日発行

にじ 5月号（第67号）

責任者：堀見 忠司

編集人：地域医療連携広報委員

特別編集委員

発行元：地域医療センター

地域医療連携本部

印刷：共和印刷株式会社

高知医療センター

〒781-8555 高知県高知市池2125-1

TEL：088（837）3000（代）

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp

Kochi Health Sciences Center Home Page : <http://www2.khsc.or.jp/>